

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部1年 大屋 実桜

①学習成果

・自分の変化

この留学プログラムを通じてより積極的に行動することが出来るようになったと感じる。私が延世大学で過ごしたクラスは文法だけでなく会話にも慣れているクラスだった。そのため初めはこのクラスメイトと仲良くなれるのか、韓国語での会話についていけるのかが不安でなかなか自分から話しかけられなかった。しかし、周りの友達が積極的に話しかけてくれ、不完全ながらも韓国語を使っている様子に刺激を受けた。現地で現地の言葉の話すという、この場でしか得られないものを得るために失敗してもいいから話しかけようと思い、クラスメイトとお昼ご飯を食べ休憩時間などに話しかけるようになった。その時は言語の力を伸ばすために韓国語で話しかけたが、今思うと言語能力に加え自分の積極性も伸びたと感じる。留学に行ったからこそ、韓国語で話す機会があって積極性を磨くことが出来たと感じた。

・次の留学について

私は教育に興味があり北欧に留学しようと考えていた。しかし、3週間の韓国での経験を経て私は語学の能力も伸ばすことが出来る留学先に行きたいと思った。3週間、韓国語が溢れた空間で生活して、自分の想像以上に韓国語の運用能力が伸びたと感じる。次の留学では英語の言語能力を高めようと思っており、そのためには公用語として英語を活用している場所で留学する方がもっと効果的に英語の能力を高められると考えた。英語が公用語で教育が充実しているという二点からオーストラリアで留学しようと考えようになった。

②海外での経験

韓国は日本と似ている部分が多かったため初海外・初留学の私にとって生活がしやすく安心できる部分が多かった。また地下鉄や店などいたるところに日本語があり、留学としてはいい環境とは言えないが、生活面での安心感は大きかった。似ているところが多いからこそ、些細な違いにたくさん気付いた。特に交通面で違いに気づくことが多かった。例えば、地下鉄が電子カードを利用するところがほとんどであったり、地下鉄の女性優先座席には空席でも座ってはいけなかったり、タクシー・バス・地下鉄などの交通費が安かったりということがあった。また最も驚いたのは、地下鉄の広告で独島・竹島問題を取り上げた国家の広告をしていることだ。またバスは24時間利用することができ、バスに限らず夜遅くまで営業していたり深夜のみ営業していたりする店も多かった。

③プログラム内容

プログラムは大きく韓国語の授業、国際学部との共同セミナー、国際学部の授業聴講の3つがあった。

韓国語の授業に関して最も印象に残っているのは授業の方法だ。まず、韓国語を使って授業を受け、先生との対話も多く、少人数で授業を受ける、というのが新鮮だった。京都大学の授業では日本語に落とし込んで韓国語を理解するやり方だった。私のクラスの先生は新出単語を簡単な韓国語で説明してくださったり、イメージを検索して見せてくださったりしたおかげで韓国語を日本語と対応させて日本語で理解して覚えるのではなく、韓国語で理解することが出来た。また私たちのクラスではクラスの友達と先生でお菓子のやり取りもあって、先生と生徒の心理的な距離が近いと感じた。対話を通じてリスニング能力やスピーキング能力を含む、韓国語でのコミュニケーション能力も養うことが出来た。

また、新しい文法に関しても先生の例文から推測して意味と使い方を学んだ。その文法を使って1人ずつ話す機会や習った文法を使って作文をする宿題もあり、インプットとアウトプットをその場で出来て身につけやすかつ

たと感じる。

国際学部の共同セミナーは、日本人以外の人とプレゼンをしてディスカッションをする、という経験が私には新しい体験だった。海外の人とのディスカッションのために発表以外でも日本の前提知識を揃えないといけなかったり、日本にベースをおいたプレゼンを作成したり、ということを行った。ディスカッションを見据えてプレゼンを構成すること上で、何を日本人と延世の留学生との共通の前提知識として話すかを考えることも初めての経験で印象的だった。

国際学部の授業聴講について、私は教授が主役ではなく生徒が主役となるような授業作りをしていると感じた。それは国際学部の生徒が自分の意見をもって伝える人たちがいるからこそ成り立つ授業だと思った。京都大学で留学生と授業を取った時、留学生はたくさん発言をするが日本人はせず、先生の授業を聞かないといけない、という日本の講義のシステムで、留学生の活発さを活かしてない授業だった。だから国際学部での授業の仕方や先生と生徒の関係性が自分にとってはいい刺激になり、教育に興味があるからこそこの方法を日本の大学でも取り入れたいと思った。

④進路への影響

①で述べた通り、私はオーストラリアに留学することを決心した。留学先についての進路の影響は①によるが、留学をすると決心した部分について、ここで詳しく述べようと思う。3週間の留学を経て韓国社会を肌で感じてネットやテレビを見ているだけでは得られない韓国の見方を得た。例えば、②で述べたように韓国は深夜まで営業しているお店が非常に多かった。これを見て韓国は先進国と言われているが国民は生きること、社会は経済を回すことに必死なのだと感じ、先進国の中でもまだまだ発展段階にあると感じた。またDMZのツアーに参加したときにツアーガイドから脱北者に対して韓国で保護を行うという政府の取り組みについて聞いた。しかし、実際にツアーガイドに脱北者について尋ねるといい印象を持っていない国民が多いという話を聞くことが出来た。このような経験は現地に自分で生き自分の肌で感じ直接自分が見て聞いたからこそ得られたものだと感じた。私は次の留学で教育について考えたいと思っており、ネットで調べる以上のものが現地にいくことで得られるようになるようになった。また延世大学の教育設備や教育方法を見て、この先の留学を経て教育について自ら考え、自分が最適だと思う教育法を見つけそれを活かした学校を設立したいと思うようになった。

UICの感想

UICでの2回の聴講に関して講義システムと講義の内容について感想を述べていこうと思う。講義システムに関して、生徒と先生のコミュニケーションが多く活発な授業になっていてとても驚いた。二回目の講義では生徒がスライドを作り発表をし、それに対して聞いている生徒が質問をするという、生徒ベースで話していくスタイルで先生は質問と答えに対してフォローをする形で生徒に対して話をしていく。また授業の最後にある先生のまとめの講義も質問が多く、話し方も非常に生き生きとしていて、そこでも生徒の意見を聞いて否定することなくフォローをする、という自由であふれた授業システムになっていると感じた。またこの授業システムは生徒のアクティブさの上になりたっており、その生徒の積極性にも大変驚き良い刺激を受けた。

講義内容に関して、日本の「衆道」について取り上げて生徒のプレゼンと講義が進んだ。プレゼンでは衆道に関して、主に性的関係にフォーカスを置き江戸時代の日本の衆道のことと現在のBL漫画について日本・韓国・中国を取り上げて紹介していた。その後の先生による講義で、生徒が述べていた性的関係にとどまらず年上の男性が年下の男性に様々なことを教える、という関係性だということを知った。衆道

についての前提知識がなかったからこそ初めは理解に苦しんだ。プレゼンを聞いて自分で考えることがあり、衆道という男性同士の性関係に置ける力関係があったのだと感じた。その後に先生からのフォローがあったこと

で、性的関係によらないものだと知り自分で考える段階があったからこそ理解が深まった。

日韓関係についての感想

I am interested in the relationships between Korea and Japan, so I was very happy to hear this lecture. Through the lecture, I learned the importance of seeing the history from various perspective. I did not know much about the differences of the recognition of comfort women between Korea and Japan. Also, I did not know how Korean people think whether the problem of the relationships between Korea and Japan is well solved or not. Japan thinks there is no problem through the treaty, but Korea thinks there is still some problems. The gap of the recognition gives our relationships some bad influences. History consists of recognitions of each person. To build comfortable relationships between Korea and Japan, people in each country must study the history from both point of view and have their own opinions. In addition to this, Japan and Korea have to learn the domestic history of each country in order to understand the country itself. I was so embarrassed not to know much about Korea although this lecture gave me the chance of thinking relationships between Korea and Japan. Through the lecture, I feel cannot think deeply about the relationships without knowing another country. I appreciate to Mr. Kahn that he gave us the history from the viewpoint of Korea and the opportunity of thinking deeply about the Korea and the relationships.